

例 言 vi

序 章 儀礼考古学の現代的意義

1 儀礼への問題関心 1
2 儀礼考古学の研究法—モノ・行為・コンテキスト— 7
3 前提の問題 12

第1章 縄文時代の儀礼と社会

1 縄文時代後半の儀礼文化 19
2 環状集落にみる空間シンボリズム 21
3 土偶と石棒—異質なシンボルと儀礼— 27
4 モニュメントと歴史意識の形成 36
5 儀礼の社会的意味 42
6 伝承された縄文的信仰 44

第2章 石棒にみる儀礼行為とコンテキスト

1 縄文中期の石棒祭儀 49
2 石棒の研究法 53
3 石棒にみる儀礼行為とコンテキスト 57
4 儀礼考古学の試金石 74

第3章 石棒と石皿—性交隠喩のコンテキスト—

1 石棒と祖先祭祀—問題設定と仮説— 79
2 石棒と石皿による性交隠喩—事例分析— 81
3 性交隠喩の表現形式と観念形態—考察— 97
4 性交隠喩のコンテキスト—解釈— 104

第4章 土偶破壊行為の再検討

1 土偶の研究法	113
2 土偶破壊説をめぐる研究史	117
3 土偶のこわれ方と人為性の再検討	121
4 用法の異なる土偶	133
5 今後の土偶研究に向けて	140

第5章 土偶と縄文土器

1 縄文土器の象徴性	143
2 縄文土器の造形史とシンボリズムの開化	145
3 土偶を象る土器	153
4 土偶と土器の関係性	163

第6章 保守的な土偶伝統—勝坂系土偶伝統と土器様式の関係—

1 問題意識—土偶は土器様式に従属するのか—	167
2 中部・関東地方における中期立像形土偶の諸型式	168
3 立像形土偶の系統分類	181
4 土偶型式と土器様式の関係	189
5 考察—保守的な土偶伝統—	198

第7章 井戸尻・勝坂文化と二つの儀礼体系

1 井戸尻・勝坂文化とは	201
2 中期農耕説と勝坂系土偶	203
3 環状集落と石棒	210
4 併存する二つの儀礼体系	217

第8章 縄文社会のドメスティケーション

1 儀礼と社会ドメスティケーション	221
2 縄文早期の儀礼と社会	226
3 縄文前期・中期の儀礼と社会	234
4 縄文後期・晩期の儀礼と社会	244
5 社会ドメスティケーションの歴史	254

終章 縄文社会と儀礼

1 コミュニケーションとしての儀礼	257
2 自然の社会化と観念技術	258
3 血縁のシンボリズム—祖先祭祀と葬制—	260
4 歴史認識の形成と伝統文化	262
5 社会複雑化と儀礼祭祀	263
6 結論と展望	265

引用文献 269

図版クレジット・出典一覧 295

あとがき 301

索引 305